「ちょっと」の多義性とネットワーク構造
― 日常談話コーパスの分析を通して ―

鹿嶋　恵

1　はじめに

日常談話の中で頻用されることばに「ちょっと」がある。工藤（1983, p.178）は、副詞の中でも「程度副詞」の代表的な一例として「ちょっと」を挙げ、同時に「量副詞」としての面も指摘する。また、仁田（2002, p.164）は「ちょっと」を程度限定と数量限定の両方の機能を持つ「量程度の副詞」の１つとして分析している。例えば、程度限定の例として（1）が、数量限定の例として（2）が挙げられている（仁田, 2002, p.181, p.184）。

（1）「ちょっと痛いわよ」と彼女は呟くように言い、…（庄司薫「赤頭巾ちゃん気をつけて」）
（2）「ちょっとカネがあるヤツは、みんなそうしている」（アエラ 1993. 5. 25）

一方、「ちょっと」の意味・用法は、副詞的なものにとどまらない。例えば中道（1991, pp.149-151）は、副詞を形式、意味、機能による用法の区分から分類を試み、一例として「ちょっと」を取り上げている。そこでは、①数量が少ないことを表す用法、②程度が低いことを表す用法、③程度が高いことを表す用法、という「ちょっと」の副詞的な用法に加え、④呼び掛け等として用いる用法、⑤伝達態度をあいまいにする用法、⑥間つなぎの用法、も挙げられている。また、グループ・ジャマシイ編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』[1] では、「ちょっと」の用法６種（1. 程度、２a. 程度のやわらげ、2b. 語調のやわらげ、2c. 言いさし、3. プラス評価、5. 呼びかけ）に加え、「ちょっと…ない」の用法２種（4a. プラス評価、4b. 語調のやわらげ）、「ちょっとしたN」の用法２種（6a. 程度のやわらげ、6b. プラス評価）が挙げられている。これらの分類を待つまでもなく、多くの国語辞典では「ちょっと」の項に「副詞」と「感動詞」の意味が併記されている[2]。つまり、「ちょっと」の意味・用法としては複数の意味の存在がかなり一般的に認められていると言えよう。

このような「ちょっと」の複数の意味・用法は、様々な視点や領域で検討が行われてきた。例えば、「配慮表現」の一種としての分析や（彭, 1990, 2005; 秋田, 2005; 山岡ほか, 2010）、モダリティ表現、発話行為、談話機能に注目した分析（牧原, 2005）、日本語教育の立場からの分析（岡本・斎藤, 2004; 薄井, 2005）もある。これら先行研究では、「ちょっと」が本来持っている語彙的意味を認め、さら追加して複数の機能を認めるものが少なくない。しかし、それら追加の意味・機能は、多様な分だけ数も膨れ上がり、その相互の関係性や構造は未だ不透明さがぬぐえない。

一方、認知言語学の領域では、ある表現が複数の意味を持ち、かつそれらの意味の関係づけが可能な場合、その有様を多義性（polysemy）と呼ぶ（cf. Lakoff, 1987, p.385）。籾山（2021, p.3）は、１つの語が共時的に複数の意味を有し、かつ複数の意味に関連性が認められる場合、「多義語」と判断している。上記のように副詞と感動詞、さらに複数の意味・機能が指摘される「ちょっと」は、まさに

この多義性を備えた多義語と言えよう。認知言語学のプロトタイプ理論に基づけば、多義語「ちょっと」の複数の意味・機能は、１つのカテゴリーとして想定されることになる。

このような多義語「ちょっと」を検討するモデル・枠組みとして有効と考えられるのが、スキーマティック・ネットワークモデル（schematic-network model）である。同モデルの先行研究や解説については、籾山（2021）の第６章が詳しい。籾山（2021, pp.153-157）のまとめによれば、同モデルはプロトタイプ理論とスキーマに基づくカテゴリー化を統合したものであり、複数の意味を統括するモデル・枠組みとして有効だという。

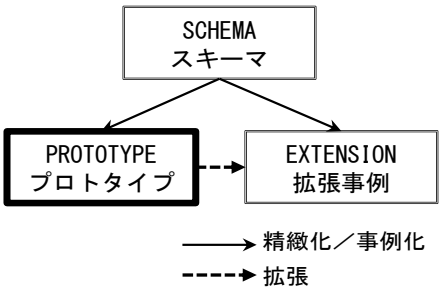

図１　ネットワーク
参考：Langacker（1991 : 271）

Langacker（1991, p.271）は、プロトタイプ、拡張事例、スキーマから成る最小の形のネットワーク（図１）を示しており、このような構造を持つカテゴリー化のモデルが「ネットワーク・モデル」と呼ばれている（辻編, 2013, p.288; テイラー, 2003/2008, Ch.8; Langacker, 2008, pp.281-289）。このネットワークでは、プロトタイプはカテゴリーの中核として機能する。拡張事例は、プロトタイプと異なる性質を持つものの、同時にそれと同じカテゴリーに属すると認識されるのに十分な類似点も備えている。この拡張事例は、カテゴリー化、すなわちプロトタイプからの拡張（図１の破線矢印）によってプロトタイプと結びつけられる。このプロトタイプと拡張事例の共通点を抽出し、概略化して表したものがスキーマである。逆に言えば、スキーマを精緻化／事例化（図１の実線矢印）したものが、プロトタイプと拡張事例とされる。このようなモデルは、多義語の「ちょっと」を検討する際にも有効と考えられる[3)]。

以上を踏まえ、本稿では、日常談話のコーパスを元に「ちょっと」の出現状況を明らかにした上で、その多義性とネットワーク構造の解明を試みる。具体的には、次の３点を明らかにする。

(a) 日常談話コーパスに現れる「ちょっと」の出現状況。
(b) 発話文および談話内において「ちょっと」が担う意味・機能。
(c)「ちょっと」の複数の意味・機能のネットワーク構造。

2　談話コーパス『日常』における「ちょっと」の出現状況とプロトタイプ的意味

本研究では、現代日本語研究会編（2016）に収録された自然な日常会話の談話資料コーパス（以下『日常』）をデータとして「ちょっと」の分析を進めた。本章では、その検索・抽出の方法をまとめた上で、発話文において「ちょっと」が出現する位置と、「ちょっと」が「少し」に言い換え可能な場合／それが難しい場合を確認し、そのプロトタイプ的意味を検討したい。

2.1 「ちょっと」の用例の抽出の方法

本研究における「ちょっと」の用例の収集では、談話コーパス『日常』から下記（3）～（7）のような「ちょっと」を含む用例を検索・抽出した。その結果、639 例が得られた。なお、各例の［　］内

の番号は『日常』での「行番号通し」を示す。当該の「ちょっと」に下線を付す。用例中の（　）内記述は、元から『日常』のスクリプトに記されていた注記である[4)]。

(3)　同僚教員と２人で雑談中。先週アイロンを買ったという話題。[3598]
同僚Ａ：で、去年の夏は、こう、洗濯した後（あと）、そういうのは手で伸ばしてパンパンってたたいて｛ああ［同僚Ｂ]｝干してって（＝ていって）、で、a) ちょっとしわがあっても｛ああ［同僚Ｂ]｝気にせず着てたんですけど、今年は、b) ちょ（＝「ちょっと」と言いかけたか)、買おうかなと思って、やっと先週【「先週」は言い淀むようにゆっくりと】買ったんですよ。
(4)　夫が家族から赤いパンツを贈られて皆で見ている。[13113]
夫：俺が選ぶと、ほんと★ベーシック色（いろ）しか選ばないから、おんなじようなものになってしまうんだよ。
妻：→ a) ちょっと b) ちょっと、合わせてみて、合わせてみて←。
(5)　職場の休憩時に４人で雑談中。トイレスプレーの置き場所を上司Ｂから確認されて。[23943]
後輩Ｃ：→逆にー、前は←積み重ねできたけどー｛うーん［上司Ｂ]｝、、
先輩Ａ：そう。
後輩Ｃ：今度は奥だから★ a) ちょっと…。
先輩Ａ：→そう←、b) ちょっとねえー。
(6)　読書会で友人４人が作家の小川洋子について雑談中。[12222]
友人Ａ：→何（なん）か←★確固たるものがあるみたい。
友人Ｂ：→ちょっとした、しつこさー｛ああ［不明女性]｝が←あると思う。
(7)　遠出後の帰宅途中で道に迷い、車中でどうすべきか相談中。[2363]
友人Ｂ：わあ、やっちったー（＝やっちゃった）＝。
友人Ｃ：＝遊びたがりかー？↑、おまえはー＜笑い［複］＞。
友人Ｂ：ちょっとー★ーー。
友人Ｄ：→だーか←ら早く帰★ろうって＜笑い＞。

例（3a）の「ちょっとしわがあっても」は、完全な形での発話例である。これに加え、今回の抽出では例（3b）の「ちょ」のように、言いかけて完遂しなかった場合も１例として計数した。また、例（4a）（4b）の「ちょっとちょっと」のような反復は分けて２つの用例とした。さらに、例（5a）（5b）のように「ちょっと」の後部を省略したような場合や、例（6）「ちょっとした」のように定型句的に用いられた場合、例（7）のように単独で用いられた場合も含めている。

2.2　発話文における「ちょっと」の出現位置

次に、このような「ちょっと」の出現状況を確認するため、「ちょっと」が発話文のどの位置において用いられているかの分析を行った。なお、本研究で用いる「発話文」という用語は、『日常』談話コーパスの文字化作業時に準拠された定義に従っている（佐竹, 2016, pp.29-32)。そのため、一発話文の途中に相手の発話が入って改行されている場合には、発話文の冒頭部とはみなしていない。

具体的には、全用例（639 例）について、次の 4 種を区分して集計した。

（ア）発話文の冒頭に現れた「ちょっと」: 例（4a）（6）
（イ）発話文の中程に現れた「ちょっと」: 例（3a）（3b）（4b）
（ウ）発話文の末尾に現れた「ちょっと」: 例（5a）（5b）
（エ）発話文の冒頭かつ末尾に（単独で）現れた「ちょっと」: 例（7）

その結果、（ア）発話文の冒頭に現れた「ちょっと」は 15.5%、（イ）中程が 8 割弱（78.9%）、（ウ）末尾が 5.0%、（エ）発話の冒頭かつ末尾が 0.6%（4 例）であった。このことから、『日常』では「ちょっと」のほとんどが発話文の中程にて用いられていることがわかる。

2.3 「少し」への言い換えの可／難

次に、量程度が少ないさまを表す副詞の「少し」に着目し、「ちょっと」が「少し」に言い換えが可能か否かという分析を行った。

「少し」と「ちょっと」の違いについて三宅（2003, p.132）は、「『すこし』が数量名詞性を失わずに、程度副詞、量副詞の枠組みにとどまるのに対し、『ちょっと』は感動詞との連続線上において、すなわち、数量名詞性や実質的概念性を失っていく過程において、量副詞らしさ、程度副詞らしさを失うと同時に一種の叙法副詞としての機能を持つ」と指摘している。この指摘から、「ちょっと」の意味範囲は「少し」のそれよりも広いことがわかる。そのため、複数の「ちょっと」から「少し」に言い換えが可能な用例を抽出することは、それ以外の「ちょっと」の用例を抽出するのに有効な方法と考えた。

ただし、その判別作業では「言い換え不可」と明確に判断できるものばかりではなく、判断に迷う場合も多かった。そのため、判断基準を拡大し、次の 2 種を判別する作業とした。

① 「少し」に言い換え可能な「ちょっと」:《「少し」言換可》
② 「少し」に言い換えができないか難しい「ちょっと」:《「少し」言換難》

①《「少し」言換可》の用例は、例えば次の（8）～（10）や、先の例（3a）のようなものである。

(8)　美容院でヘアスタイルについて客が美容師に相談中。[3973]
客：　もうちょっとボリュームがあったほうが//。
美容師：上から＝。

(9)　卒業式に着る袴について雑談中。祖母に着物の上に着る袴の丈は短いのかと問われて。[585]
孫：だけど、や（＝「やっぱり」と言いかけたか）、何（なん）か、着させてもらってる時に、
やっぱり a)ちょっと丈短くしてた感じが｛ふうん［祖母］｝した。
裾を b)ちょっと上げ★てた。

(10) 娘と両親が自宅で食事中。後日の献立と買い物の為に冷蔵庫内の在庫品を確認。[2996]
娘：→何（なに）が残って←、何（なに）が残って、★れ、冷蔵庫ん（＝の）中。

母：→悩んでる←。
　　もう、あとちょっとギョーザがあるぐらい。
娘：ギョーザか↓＝。

例（8）（9a）（9b）は程度が低い様子、例（10）や先の例（3a）は量が少ない様子を表している。いずれも「少し」に言い換えても意味はほぼ変わらない。

（8’）　客：もう少しボリュームがあったほうが//。
（9a’）孫：やっぱり少し丈短くしてた感じがした。
（9b’）孫：裾を少し上げてた。
（10’）母：もう、あと少しギョーザがあるぐらい。
（3a’）同僚 A：で、少ししわがあっても気にせず着てたんですけど、

これに対し、②《「少し」言換難》の「ちょっと」の用例には、先の例（3b）（4）（5a）（5b）（6）（7）が該当する。これらの「ちょっと」は、「少し」に言い換えると意味が変わったり、不自然に感じられる。

（3b’）＊　同僚 A：今年は、b) 少し、買おうかなと思って、
（4’）＊　妻：　　→少し少し、合わせてみて、合わせてみて←。
（5a’）？　後輩 C：今度は奥だから★ a) 少し…。
（5b’）？　先輩 A：→そう←、b) 少しねえー。
（6’）＊　友人 B：→少しした、しつこさー｛ああ［不明女性］｝が←あると思う。
（7’）＊　友人 C：＝遊びたがりかー？↑、おまえはー＜笑い［複］＞。
　　友人 B：少しー★ーー。

このような《「少し」言換可》と《「少し」言換難》という 2 種の判別を、先に抽出した「ちょっと」すべての用例について二人の日本語母語話者が個別に行い、後でそれを照合・協議して決定した。なお、「ちょっと」の前後に聞き取り不能箇所や笑い等が含まれたものは「判定不能」とした。この判別作業の結果を、発話文での出現位置ごとに集計したものが、次の表 1 である。

表 1　発話文での「ちょっと」の出現位置と「少し」への言い換えの可／難

	「ちょっと」の出現位置					
「少し」に言い換えの可／難	冒頭	中程	末尾	冒頭∩末尾	計	（%）
《「少し」言換可》	46	298	6	0	350	（54.8）
《「少し」言換難》	50	194	24	4	272	（42.6）
判定不能	3	12	2	0	17	（ 2.7）
計（%）	99（15.5）	504（78.9）	32（5.0）	4（0.6）	639	（100.0）

この表１を見ると、《「少し」言換可》の「ちょっと」が５割強（54.8％）を占め、《「少し」言換難》の「ちょっと」は４割強（42.6％）となっている。また、発話文での出現位置を見てみると、発話文の中程では《「少し」言換可》の方が圧倒的に多いものの、発話文の冒頭ではむしろ《「少し」言換難》の方がわずかに多い。また、発話文の末尾に出現する「ちょっと」は《「少し」言換難》が４分の３を占める。すなわち、発話文の中程で用いられる「ちょっと」は《「少し」言換可》が大半を占め、一方、発話文の中程以外で用いられるそれは《「少し」言換難》の割合が高いことがわかる。

2.4 「ちょっと」のプロトタイプ的意味

ここまで、談話データ『日常』における「ちょっと」の出現位置や、「少し」への言い換え可／難を見てきた。これらの結果を踏まえ、「ちょっと」のプロトタイプ的意味を検討したい。

プロトタイプ理論では、多義語には複数の意味の存在とプロトタイプ的意味が認定されていることを前提とする。プロトタイプ的意味について籾山（2021, p.15）は、複数の意味の中で（ある言語の母語話者（の大半）にとって）最も基本的な意味（であると直感的に感じられる意味）と定義している。この背景には、多義語の複数の意味全体を１つのカテゴリーを構成する個々の成員（member）は、すべてが同等の重要性を持つのではなく、何らかの意味で典型的（prototype）な成員があるというプロトタイプ理論の考え方がある（Lakoff, 1987, Ch.2）。

先述の「ちょっと」に関する先行研究や、発話文における出現位置や頻度、および「少し」への言い換えの可／難、さらには母語話者としての直感も踏まえると、「ちょっと」のプロトタイプ的意味には、量程度の副詞としての意味＜少量 / 低程度＞が浮上する。

一方、プロトタイプ的意味の認定に参考となるのが「中心義」という概念である（瀬戸ほか編, 2007, p.4; 瀬戸, 2007）。「中心義」とは、共時的な多義ネットワークの中心に位置する意義であり、その出発点となるものと定義される。その特性として次の９点が挙げられ、これらの特性を数多く備えるものほど典型的な中心義とみなされる。（ⅰ）文字通りの意義である。（ⅱ）関連する他の意義を理解する上で前提となる。（ⅲ）具体性（身体性）が高い。（ⅳ）認知されやすい。（ⅴ）想起されやすい。（ⅵ）用法上の制約を受けにくい。（ⅶ）意義展開の起点（接点）になることがもっとも多い。（ⅷ）言語習得の早い段階で獲得される。（ⅸ）使用頻度が高い。これらの特性を「ちょっと」の＜少量 / 低程度＞と照合すると、少なくとも（ⅱ）（ⅳ）（ⅴ）（ⅷ）（ⅸ）を満たすと考えられる。中心義とプロトタイプ的意味は完全には同義ではないものの、＜少量 / 低程度＞が上記のような特性を兼備するため、これを「ちょっと」のプロトタイプ的意味と認める根拠になり得ると考える。

以上のことから、本稿では＜少量 / 低程度＞を「ちょっと」のプロトタイプ的意味と認定し、検討を進めていくことにする。

3 《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能

前章で「ちょっと」のプロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞が認定されたことを踏まえ、次に、「少し」への言い換えができないか難しい「ちょっと」、すなわち《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能について、類似性や共通性を検討していきたい。まずは《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能のタイプと、発話文における出現位置から見ておきたい。

3.1 《「少し」言換難》「ちょっと」の5型と発話文における出現状況

具体的な分析方法として、まず《「少し」言換難》の「ちょっと」が発話文内で何を修飾しているか（あるいは修飾していないか）を基準に、用例の分類を行った。

その結果、《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能には、次の5つの型（A型～E型）が抽出できた。A型：被修飾部が判断／評価／状態を示すもの。B型：行為の修飾／前置きを示すもの。C型：被修飾部が省略されているもの。D型：被修飾部がないもの。E型：定型句的に使われるもの。なお、判定者の判断が最後まで一致しなかったものは「判定保留」（Z型）とした。

この範疇に基づき、《「少し」言換難》の「ちょっと」5型の出現状況について、発話文内での出現位置ごとにまとめたものが、次の表2である。

表2 《「少し」言換難》「ちょっと」の意味・機能および出現状況

	「ちょっと」の出現位置					
意味・機能の型	冒頭	中程	末尾	冒頭∩末尾	計	(%)
A型：被修飾部が判断／評価	8	48	0	0	56	(20.6)
B型：被修飾部が発話行為	5	36	0	0	41	(15.1)
C型：被修飾部を陳述回避	1	3	20	1	25	(9.2)
D型：被修飾部なし	29	89	0	3	121	(44.5)
E型：定型句的表現	2	5	1	0	8	(2.9)
Z型：判定保留	5	13	3	0	21	(7.7)
計	50	194	24	4	272	(100.0)

この表2から、《「少し」言換難》の「ちょっと」では、D型（被修飾部のなし）が突出して多く4割強を占め、次いでA型（被修飾部が判断／評価／状態を示す「ちょっと」）が2割、そしてB型（行為の修飾 / 前置き）が1割弱で続くことがわかる。また、この「ちょっと」の出現位置は、A型とB型は発話文の中程が多く、C型はその末尾、D型は中程に加えて冒頭でも多く出現している。

以下、このA～E型の分類に基づき、その類似性や共通性を検討する。

3.2 A型：被修飾部が判断／評価を示す「ちょっと」

A型は、修飾する用言が話し手の判断／評価を示す「ちょっと」である。益岡（2007, p.109）は、主要部となる述部ではなく、付加部に現れるモダリティ要素（語句）を「付加語」と呼ぶ。この付加語は、命題領域の付加語とモダリティ領域の付加語に大別され、さらに意味的階層に対応して4種に分けられる。そのうち、程度を表すものと量を表すものが「一般事態階層の付加語」とされる。すなわち「ちょっと」は一般事態階層の付加語としてモダリティ要素を含み、話し手の判断／評価を示すものと考えられる。このようなA型の例には次の例（11）～（14）が該当する。

（11）職場で休憩中に上司と部下が桃の置き場について相談中。[23863]

上司：で、右のとこ（＝所）はちょっと置けないでしょ？、★ちょっと空（あ）いてるけどもー…。

部下：→そうですね《重複終了は次の発話文》。

(12) 補聴器店で店員が客に説明中。[23222]

店員：でー、<少し間>この大きさだとちょっと、やっぱりちっちゃすぎて（＝小さすぎて）指先が少し、っていうような方（かた）ですと、ええ、[商品名4] とゆうんですが、こちら｛ああ［客］｝ですね。

(13) 職場で研究職ポストの厳しさについて2人で雑談中。[20401]

同僚B：でも、それしか、ま（＝まあ）、よっぽどな<少し間>成果がなかったら、ちょっと難（むずか）しいですよ。

同僚A：だから、韓国に行（い）っちゃったやついるよ。

(14) 友人2人が外出先で公務員の年金制度一元化について雑談中。[15158]

友人A：ま（＝まあ）、するべきだよな【少し笑いながら】。
さすがに、そりゃあ、ちょっと許せんわ↓。

友人B：でも、公務員、今｛うん［友人A］｝、(後略)

これらの用例では、いずれも話し手の判断／評価を示す際に「ちょっと」が用いられている。例(11) では、桃が置けないと判断されており、それを「ちょっと」が修飾している。つまり、話し手の「置けない」という否定的な判断／評価が、「ちょっと」の使用により、その程度を限定して示されている。例 (12) の場合は、「ちっちゃすぎる」という判断／評価を「ちょっと」が修飾している。つまり、「ちっちゃすぎる」という基準を超えた程度だという判断／評価が、「ちょっと」によってその程度を限定して示されている。一方、例 (13) では、「難しい」という判断には、話し手が基準とする上限がある。話題となっている状況は、その上限にかなり近い程度ではあるものの、完全には上限に達してはいないと程度限定しており、それが「ちょっと」と表現されている。例 (14) でも同様に、「許せない」という評価について基準の上限が想定され、「ちょっと」の使用によってその程度を限定し、完全に上限には達してはいないという判断を示している。

このように、例 (11) ～ (14) はいずれも、「ちょっと」の被修飾部が（話し手の）判断／評価を表し、モダリティ要素を含む表現となっている。すなわち、これらの「ちょっと」は付加語として<モダリティ要素の程度限定>を意味する点で共通する。

ただし、例 (11) (12) と、例 (13) (14) の間には、違いがある。例 (11) (12) の「ちょっと」は、これを「かなり」に置きかえると不自然になったり、意味が変わったりする。一方、例 (13) (14)「ちょっと」を「かなり」に言い換えても、発話の意味はほぼ変わらない。

(11') ＊ で、右のとこはかなり置けないでしょ？

(12') ＊ この大きさだとかなり、やっぱりちっちゃすぎて

(13') 成果がなかったら、かなり難（むずか）しいですよ。

(14') さすがに、そりゃあ、かなり許せんわ↓。

すなわち、例 (13) (14) の「ちょっと」の意味はむしろ「かなり」に近く、<高い程度>と理解できるものである。このような違いから、例 (11) (12) のような「ちょっと」を A-1 型、例 (13)

(14) のような「ちょっと」を A-2 型と呼ぶことする。

以上まとめると、A-1 型と A-2 型の「ちょっと」はいずれも付加語として＜モダリティ要素の程度限定＞を行うという意味で共通していた。また、A-1 型は、その判断 / 評価の結果が低い点でプロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞との類似性があった。一方、A-2 型の判断 / 評価の結果がむしろ高いこと、つまり＜高程度＞を意味するという差異が存在した。このことから、A-1 型はプロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞からの拡張と考えられ、A-2 型は A-1 型からの拡張と位置付けられる。他方、＜少量 / 低程度＞も A-1 型も A-2 型も、＜被修飾部の程度限定＞という点では共通する。そのためこれらに共通の上位スキーマ（スーパースキーマ）として、＜被修飾部の程度限定＞を想定できる。これらの関係を図示すると、図 2 のようになる。

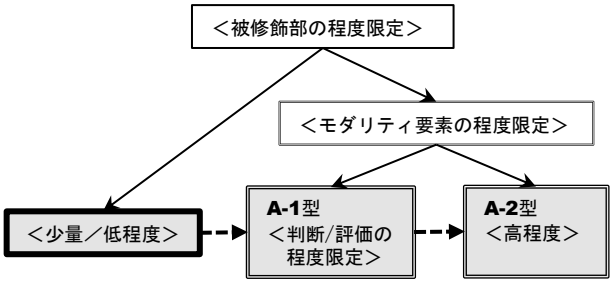

図 2 「ちょっと」A 型のネットワーク構造

3.3　B 型：被修飾部が発話行為である「ちょっと」

B 型は、「ちょっと」の被修飾部が発話行為のもので、次の例（15）～（20）が該当する。これらの「ちょっと」は、いずれも発話行為理論で言うところの発話行為（厳密に言えば「発語内行為」cf. Searle, 1969, pp.54-71）に先行して用いられているという特徴を持つ。

(15) 補聴器店で補聴器を耳かけ式に変えようかと客が相談中。[23173]

店員：で、＜沈黙＞ちょっと新しい資料をお持ちしますね。【資料を取りに行く】

(16) 自宅で車での帰省について相談中。[16531]

妻：それは、ちょっとかくにーん（＝確認）、してみたら？、「車、どこに置いとくん」とかいうことでさ。

夫：そこ以外、置いてくれるとこ（＝所）ある？↑、だって＜笑い＞。

(17) 裂き織り教室で、他店から預かっている布の有無を確認中。[88538]

先生：ありますか？↑

ちょっと見せてください。

生徒：はい。

(18) PC ゲームの設定作業中、友人にアドレスを出すことを頼む。[18778]

友人 A：あれ（＝指示詞）、ちょっとー、出してくれる？↑＜ハッハッハッ★ハハハハハハハ（笑い）＞。

友人 B：→何（なん）だよー、おい←。

(19) 自宅で夫婦がテレビを見ながら食事中。[22468]

妻：＜沈黙 4 秒＞テレビちっちゃく（＝小さく）ない？。

夫：ん？↑、今ちょっと、これ（※談話録音）、や、やってるから＝。

妻：＝何（なん）だ？、これ。【※テレビを見ての発話】

(20) 職場での会議。通販書籍の返金は難しいことについて説明中。[6003]

部下D：なんで（＝なので)、ちょっとそれも｛うん［上司A]｝紹介はできなかったんで。

上司A：うん。

まず、例（15）では、話し手自身が「資料を持ってくる」という発話行為［申し出］の直前に「ちょっと」が用いられている。例（16）も同じく、妻が（車での帰省について）確認することを［提案］する発話行為の直前に用いられている。

また、例（17）（18）では、「ちょっと」の後にそれぞれ、「見せてください」という発話行為［依頼]、「出してくれる？↑」という［指示］が続いている。

さらに、例（19)「ちょっと」の後には「これ、や、やってるから＝」という発話行為［言い訳］が、また例（20）では、「それも紹介はできなかったんで」という［断り］が続く。

このように、例（15）～（20)では、「ちょっと」の被修飾部が発話行為であり、「ちょっと」がそれらの発話行為の程度を緩和している点で共通する。

これに関し、ポライトネスの観点から見ると、例（15）～（20)のような行為は、聞き手の消極的フェイスを脅かし、同時に、相手との良好な人間関係を築こうとする話し手自身の積極的フェイスをも脅かす行為でもあり、FTAs（face threatening acts）に該当する（Brown & Levinson, 1987)。それゆえ、例（15）～（20）の状況では、聞き手へのFTAを回避／緩和するための補償ストラテジーの1つとして「ちょっと」が使用されたものと考えられる[5)]。すなわち、例（15）～（20）のような「ちょっと」は、＜FTAの回避/緩和＞という機能を果たす点で共通していると言えよう[6)]。

ただし、このような例（15）～（20）には、相違点も存在する。例（15）（16）と、例（17）（18）は話し手から当該行為を働きかけるのに対し、例（19）（20）は相手（聞き手）の発話への応答として話し手が当該行為を行う、という違いがある。また、当該発話行為が遂行された後、相手がその発話行為を受け入れた場合には、例（15）（16）は相手に利益が生じる可能性があるのに対し、例（17）（18）と例（19）（20）は相手に負担や不利益が生じる可能性がある、という違いもある。さらに、例（17）（18）は＜FTAの回避/緩和＞の対象が、聞き手に求められる未来の行為となっている。これらの違いから、例（15）（16）をB-1型、例（17）（18）をB-2型、例（19）（20）をB-3型と呼ぶことにする。

まとめると、B型の「ちょっと」には、働きかけ／応答の違いや受益者の違いから、3種（B-1型、B-2型、B-3型）が認められた。この3種は、被修飾部が発話行為であり、＜発話行為の程度緩和＞および＜FTAの回避/緩和＞という機能で共通することから、これらスキーマと認定できた。また3種とも、＜被修飾部の程度限定＞という点でプロトタイプ的意味＜少量

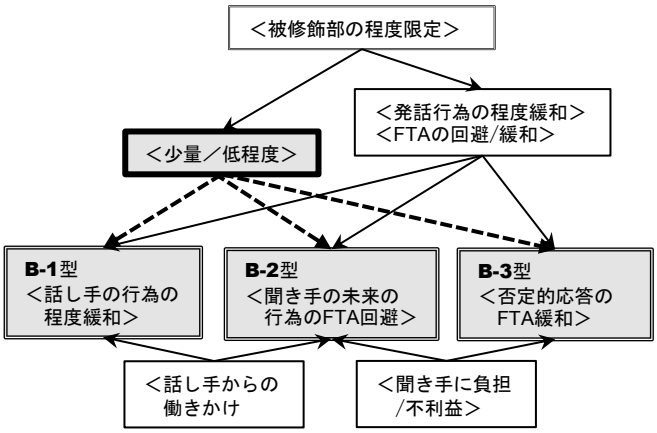

図3 「ちょっと」B型のネットワーク構造

/ 低程度＞と共通する。そのため、3 種はそれぞれ＜少量 / 低程度＞からの拡張と考えられ、図 3 のように示される。

3.4　C 型：被修飾部が陳述回避される「ちょっと」

被修飾部の陳述が回避される C 型の「ちょっと」は、次の例（21）や（22）が該当する。

（21）帰省に際し、実家の二段式ガレージの使用可否を相談中。［16597］
夫：可能性があるん？。
妻：うん。
うん、て言（い）うか、てんけーん（＝点検)、してもらってんのかなっていう、その辺がちょっと。
夫：じゃあ、え、ほんで（＝それで)、お父さんが、新しいマンションのほうに止めさしてもらうってことになるかもしれへん（＝しれない）の？。

（22）（＝（5））職場の休憩時に 4 人で雑談中。トイレスプレーの置き場所を上司 B から確認されて。［23943］
後輩 C：→逆にー、前は←積み重ねできたけどー｛うーん［上司 B]｝、、
先輩 A：そう。
後輩 C：今度は奥だから★ a) ちょっと…。
先輩 A：→そう←、b) ちょっとねえー。
上司 B：奥だったら c) ちょっと厳しいねえー。
先輩 A：うーん＝。

例（21）では、妻が「その辺がちょっと」と言いさし、その続きを述べていない。しかし、夫はそれを問いただすこともなく「じゃあ、え、ほんで（＝それで)」と次の可能性について言及している。このことから、夫は妻の「ちょっと」という発言により、二段式ガレージは使用不可という否定的な応答を理解できていることが窺える。

それは例（22）でも同様である。例（22）では、上司 B から確認された際、後輩 C は「今度は奥だから★ a) ちょっと…」と「ちょっと」の被修飾部を述べていない。続く話者の先輩 A も同じで、重複して話し始めた「→そう←、b) ちょっとねえー」も被修飾部を述べていない。

しかし母語話者としては、これら「ちょっと」の言い淀みは決して不

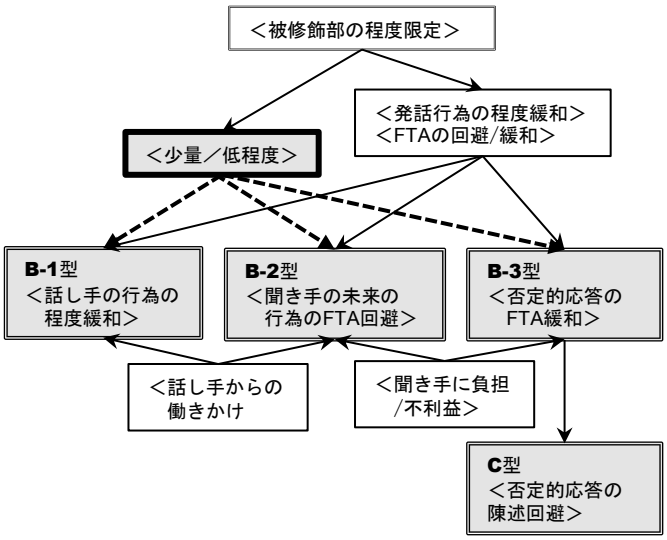

図 4　「ちょっと」B 型と C 型のネットワーク構造

自然ではなく、その後には「場所が良くない」という否定的な応答が推測できる。それゆえ上司Ｂは、陳述回避された被修飾部を代弁するように、「奥だったら c) ちょっと厳しいねえー」と述べることができたと考えられる。

このようにＣ型の「ちょっと」は、その発話のみでB-3 型の「ちょっと」を用いた発話文全体の伝達と同等の意味・機能が伝達される。すなわちＣ型の意味・機能は、B-3 型「ちょっと」のそれと、包摂関係にあると言えよう。すなわち、より特殊で指示範囲が狭い意味（種：Ｃ型）が、より一般的で指示範囲が広い意味（類：B-3 型）を表す提喩（synecdoche）に該当すると考えられる（cf. 籾山, 2014, pp.44-57; 2021, pp.117-126）。以上のことから、Ｃ型「ちょっと」を、Ｂ型のネットワークに加えると図４のようになる。

3.5　Ｄ型：被修飾部分がない「ちょっと」

Ｄ型の被修飾部分がない「ちょっと」には、まず、発話の冒頭で用いられる例（23）～（25）のような例が挙げられる。これらは、感動詞と呼ばれる「ちょっと」に該当する。

(23)（＝（4））夫が家族から赤いパンツを贈られて皆で見ている。[13113]

夫：俺が選ぶと、ほんと★ベーシック色（いろ）しか選ばないから、おんなじようなものになってしまうんだよ。

妻：→ a) ちょっと b) ちょっと、合わせてみて、合わせてみて←。

(24) 教材編集会議にて問題の提示順序や重要度の表示法を相談中。[6043]

執筆者Ｅ：→いち、いちいち←、必ず、こう、上から順番に↑、混ぜてきて↑、置いてきて、下（した）は切れるようにしてお★くの？。

執筆者Ｂ：→ちょ（＝ちょっと）←、ほ（＝「星」の１拍目）、何（なん）か星か花か何（なん）か★＃＃。

参加者：　→★ああ←、そうですね。

(25)（＝（7））遠出後の帰宅途中で道に迷い、車中でどうすべきか相談中。[2363]

友人Ｂ：わあ、やっちったー（＝やっちゃった）＝。

友人Ｃ：＝遊びたがりかー？↑、おまえはー＜笑い［複］＞。

友人Ｂ：ちょっとー★ーー。

友人Ｄ：→だーか←ら早く帰★ろうって＜笑い＞。

例（23）では、先行する発話に割り込む際に、発話文の冒頭部で「ちょっと」が用いられている。つまり、この発話者（妻）は「ちょっと」の使用によって話順（turn）を取得し、話者交替を実現させている[7]。また、例（24）「ちょ」は不完全な形であるものの、文字化作業者の注記に「（＝ちょっと）」とあるように、例（23）と同様に、相手の発話に重複するタイミングで話順を取り、話者交替を実現させている。すなわち、これらの「ちょっと／ちょ」は、話順の取得／維持という＜談話管理機能＞を果たすことで類似する。

一方、同じ発話冒頭にて用いられる場合でも、例（25）は＜とがめ / 非難＞として用いられている。ここでは友人Ｃの発話「＝遊びたがりかー？、おまえはー」を受けて、友人Ｂが「ちょっとー

★ーー」と発話する。車中は笑いが続く和やかな雰囲気であるものの、友人Cからの揶揄するような発話に対し、友人Bの発話はそれのみで反意や抵抗感を表していることが理解できる。このように発話行為＜とがめ / 非難＞として用いられる「ちょっと」は、＜呼びかけ＞から拡張した意味・機能と考えられる。

ここで、例（23）（24）のような＜呼びかけ＞の「ちょっと」をD-1型、例（25）のような＜とがめ / 非難＞の「ちょっと」をD-2型と呼ぶことにする。

このD-1型＜呼びかけ＞や、D-2型＜とがめ / 非難＞は、その発話行為そのものが、相手の消極的フェイスを脅かすという意味でFTAに相当する発話行為でもある。特にD-1型は先のB型と同様、「ちょっと」の使用により発話行為の程度を緩和し、FTAを回避／緩和する機能を果たす。すなわち、B型、およびD-1型に共通するスキーマとして＜発話行為の程度緩和＞＜FTAの回避 / 緩和＞が認定できる。しかし、D-2型＜とがめ / 非難＞はD-1型と類似性をもちながらも、＜FTAの回避 / 緩和＞の機能は希薄化している。このためD-2型はD-1型からの拡張と考えるのが妥当であろう。

一方、次の例（26）や例（27）では、発話の中程において、被修飾部のない「ちょっと」が用いられている。

（26）職場で、同僚Bが中国の学会から口頭発表を依頼されたという話題で雑談中。[20454]

同僚B：あ、でも、何（なん）か、3回も、き（＝「来た」と言いかけたか）、来るから｛ああ［同僚A］｝、「本物だー」とか思って★＜笑い＞。

同僚A：→そうか←。

同僚B：＜沈黙＞まあ、ちょっと＜沈黙＞すぐ発表できることでもあったら、＜少し間＞ま（＝まあ）、あと、旅費さえ出してくれるなら、行（い）きたかったですけどね。

（27）自宅でPCゲームの設定作業中。[18824]

友人A：これは、じゃあ、保存、保存すん（＝するん）でしょ？。

友人B：うーん、いや、いや、よくわか（＝「分からない」と言いかける）、うーん。
そ、そのへんが、a) ちょ（＝「ちょっと」と言いかける）b) ちょっと、そういうのは c) ちょっと俺、d) ちょっと分からない。

例（26）も、例（27a）（27b）（27c）も、いずれも「ちょっと」が発話の中程で修飾先が不明瞭なまま用いられている。

特に、例（26）の「ちょっと」は、「ちょっと」の前後に沈黙が生じている。このような沈黙が生じる時点は、相手が話順を取ろうとすれば可能であったはずの場所である。それにも拘わらず話者交替は生じず、むしろ、ここで発話者（同僚B）が「ちょっと」が発話することにより、その発話者の話順が保持されている。このような「ちょっと」は、いわゆるフィラー（山根 , 2002）に相当するものである。それは、例（27a）（27b）（27c）の「ちょっと」も同様である[8)]。

このように、例（26）や例（27a）（27b）（27c）のような「ちょっと」は、話者が発話権を維持しつつ発話を継続している点で類似する。その点では、D-1型やD-2型と同様、談話の管理機能を果たしていると考えられる。ただし、D-1型やD-2型と違い、その修飾先は不明瞭で、発話位置も冒頭に限らず、＜FTAの回避 / 緩和＞の機能も希薄化している。このことから、例（26）や例（27a）

(27b)(27c) のような「ちょっと」を D-3 型と呼ぶことにする。

以上、D 型の「ちょっと」のネットワークについてまとめると、図 5 のようになる。D-1 型、D-2 型、D-3 型の 3 種に共通するのは＜発話権の維持＞というスキーマである。一方、D-1 型と D-2 型は＜発話の開始＞という機能で共通する。このような 3 種の D 型は、＜被修飾部なし，談話管理機能＞をスーパースキーマとするネットワークを形成している。このネットワークは、もう一つのスーパースキーマ＜被修飾部の程度限定＞とは別の拡張構造を成している。しかし、D-1 型と D-2 型はその発話自体が発話行為であり、特に D-1 型は B 型共通のスキーマ＜発話行為の程度緩和，FTA の回避 / 緩和＞にリンクする。そのため、2 つのスーパースキーマの間には直接的なリンクはないものの、D-1 型を介する下位構造でリンクしていると考えられる。

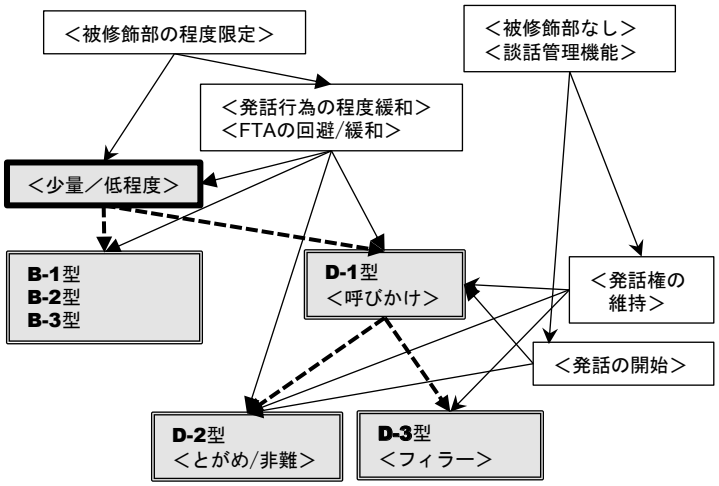

図 5 「ちょっと」D 型のネットワーク構造

3.6 E 型：定型句的に使われる「ちょっと」

最後に、定型句的に使われる「ちょっと」には、例 (28)(29) のような用例が該当する。

(28) 共通の知人が金沢の会社で行った就活について車中で雑談中。[19404]

部下：→何（なん）で←金沢＃＃★すねえ？↑。

上司：→ちょっと←したライバル会社＜少し間＞に、なるんだけどー＝、、

(29)（＝(6)）読書会で作家の小川洋子について雑談中。[12222]

友人 A：→何（なん）か←★確固たるものがあるみたい。

友人 B：→ちょっとした、しつこさー｛ああ［不明女性］｝が←あると思う。

例 (28) も例 (29) も、それぞれ「ちょっとした」の被修飾部が名詞（物事）であり、「ちょっとした N」という定型句となっている。また、例 (28) の「ライバル会社」も、例 (29) の「しつこさ」も、強い意味を含む名詞であり、その言葉を選択した話し手の判断 / 評価（モダリティ要素）が含まれる。すなわち、例 (28) や例 (29) のような「ちょっとした」は＜判断 / 評価の程度緩和＞という意味を含み、その点で先に見た A-1 型と類似する。このような「ちょっとした」の意味は、A-1 型からの拡張と考えられよう。ここでは、例 (28) も例 (29) のような「ちょっとした」を E 型と呼ぶことにする。

なお、今回の『日常』の談話資料では他にも、「ちょっと一言」「8 時ちょっと」等、慣用的に「ちょっと」と名詞（物事）がひとまとまりで用いられる例があり、これらも E 型に相当すると考え

られた。ただ、これらの用例は数が少なかったため、今回はその分析を見送ることとした。

以上のようなＥ型「ちょっと」の意味・機能を、先のＡ型のネットワークに加えると、図６になる。Ａ型の２種（A-1 型と A-2 型）とＥ型は、＜モダリティ要素の程度限定＞というスキーマで共通する。また＜モダリティ要素の程度限定＞とプロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞は、＜被修飾部の程度限定＞というスーパースキーマでリンクすると考えられる。

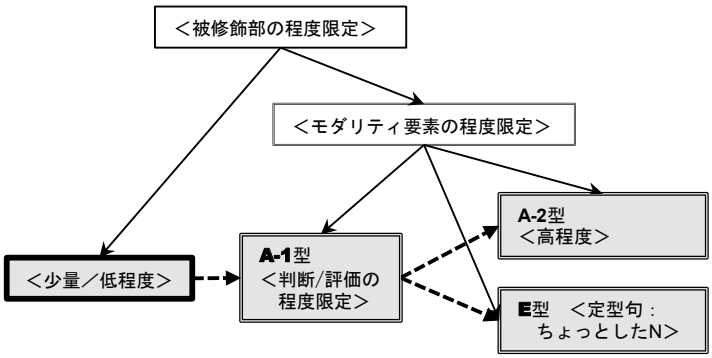

図６　「ちょっと」Ａ型とＥ型のネットワーク構造

3.7 《「少し」言換難》の「ちょっと」意味・機能のネットワーク構造

ここまで、「少し」に言い換えができないかそれが難しい《「少し」言換難》の「ちょっと」に焦点を絞り、スキーマティック・ネットワークモデルに基づいて、Ａ型～Ｅ型の５つの意味・機能の類似性や共通性を検討してきた。その結果、《「少し」言換難》「ちょっと」のカテゴリーには、プロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞を起点とした、拡張とリンクから成るネットワーク構造が明らかになった。ここで、このネットワーク構造を総括しておきたい。

このネットワーク構造には、プロトタイプ的意味から拡張された２次的成員として、５種の拡張事例（A-1 型、B-1 型、B-2 型、B-3 型、D-1 型）を認定できた。また、プロトタイプ的意味と直接的な類似性はないものの、２次的成員との類似性を持つ３次的成員として、A-1 型から A-2 型とＥ型、B-3 型からＣ型、D-1 型から D-2 型と D-3 型が認定でき、いずれも拡張事例と言える。

このうちＡ型の２種とＥ型に共通するのは＜モダリティ要素の程度限定＞というスキーマであり、Ｂ型３種のそれは＜発話行為の程度緩和，FTA の回避 / 緩和＞である。これら２つのスキーマの上位に抽出できたのが＜被修飾部の程度限定＞というスキーマであった。このスキーマは、プロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞とも共通の特性を持つ。このことから、＜被修飾部の程度限定＞をスーパースキーマとして認定できた。

一方、Ｄ型の３種に共通するスキーマが＜発話権の維持＞であり、中でも D-1 型と D-2 型は＜発話の開始＞という共通スキーマをもつ。D-3 型は＜発話権の維持＞は担うが、＜発話の開始＞の機能はない。このことから、Ｄ型の３種のスーパースキーマとして＜被修飾部なし，談話管理機能＞を抽出した。このスーパースキーマは、プロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞と直接のリンクはない。しかし、D-1 型＜呼びかけ＞と D-2 型＜とがめ / 非難＞は、それ自体が発話行為であり、特に D-1 型はＢ型共通のスキーマ＜発話行為の程度緩和，FTA の回避 / 緩和＞とリンクする。そのため、２つのスーパースキーマである＜被修飾部の程度限定＞と＜被修飾部なし，談話管理機能＞の間には直接的なリンクはないものの、D-1 型を介する下位構造でリンクすると考えられた。

以上、《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能について、そのネットワーク構造を一括して示すと図７のようになる。

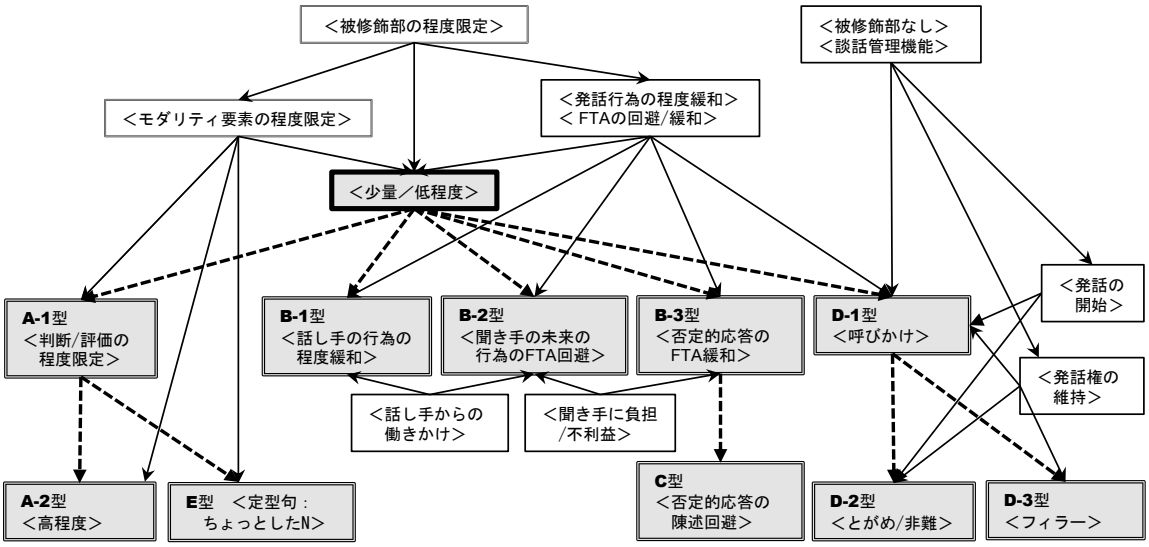

図７ 「少し」に言い換えが難しい「ちょっと」の意味・機能のネットワーク構造

4　おわりに

以上、本稿では、日本語の日常談話コーパス（『日常』）を元に、「ちょっと」の出現状況を明らかにした上で、談話分析および認知言語学の視点から、その多義性とネットワーク構造の解明を試みた。その結果、次の３点を明らかにした。

a）『日常』に現れた「ちょっと」639 例のうち､「少し」に言い換えができないか難しい「ちょっと」:《「少し」言換難》が４割強を占めた。

b）《「少し」言換難》の「ちょっと」に焦点を絞ってその修飾関係を分析した結果、５つの型が抽出できた。A 型：被修飾部が判断／評価を示すもの。B 型：被修飾部が発話行為であるもの。C 型：被修飾部が陳述回避されるもの。D 型：被修飾部がないもの。E 型：定型句的に使われるもの。また「ちょっと」のプロトタイプ的意味として＜少量 / 低程度＞を認定した。

c）スキーマティック・ネットワークモデルに基づいて、上記 b）の５つの型を分析した結果、「ちょっと」の意味・機能には、プロトタイプ的意味＜少量 / 低程度＞からの拡張とリンクから成るネットワーク構造が認定できた。同構造内の上位には、２つのスーパースキーマ、＜被修飾部の程度限定＞と＜被修飾部なし，談話管理機能＞が抽出された。両者の間には、D-1 型を介した下位構造におけるリンクも認められた。

今回、談話分析と認知言語学による視点を導入することにより、ともすれば累加的／並列的に挙げられていた「ちょっと」の複数の意味・機能を、１つのネットワーク構造として捉えることが可能になった。しかし、今回の分析は限られた談話コーパスに基づくものであり、また「少し」に言い換えが可能な「ちょっと」の分析には深く踏み込むことができなかった。被修飾部のない D 型のさらなる分析も急務である。これらを今後の課題とし、より包括的な体系化を目指したい。

＊ 本研究はJSPS科研費 JP20H05630の助成を受けている。また本稿は日本語教育学会2022年度春季大会での口頭発表の成果の一部を含む。その共同研究者の西村史子氏（ワイカト大学）にはデータ整理・分析を始め多大なる協力を得ており、議論や推敲の過程でも多くの示唆や助言を受けた。記して深く感謝申し上げたい。言うまでもなく本稿の責任はすべて筆者にある。

注

1）真嶋・濱田（1999, p.28, p.43）は、外国人学習者を意図して作成された複数の辞典類を調査した上で、この『日本語文型辞典』の「ちょっと」の扱いが「網羅的」と指摘している。

2）たとえば、『明鏡国語辞典』（大修館書店, 第三版, 2020）は、副詞の意味・用法に続けて、感動詞の意味・用法に「軽く相手に呼びかける語。『―、君、待ってくれ』」を挙げている。同様に「ちょっと」の副詞と感動詞の意味を別立てで挙げるものを手近な辞典類で確認したところ、『大辞林』（三省堂, 第四版, 2019）、『新明解国語辞典』（三省堂, 第八版, 2020）、『大辞泉』（小学館, 第二版, 2012）、『日本国語大辞典』（小学館, 第二版, 2000）があった。一方、『広辞苑』（岩波書店, 第七版, 2018）は別立てではなく、感動詞的用法も副詞のそれに含めている。なお管見の限り、古語辞典おいては「ちょっと」の感動詞的意味の記載は見当たらず、通時的な研究が望まれる。

3）籾山（2021）は、スキーマティック・ネットワークモデルではメトニミーに基づく意味拡張が取り込めないという課題も指摘し、そこから自らの統合モデルを提唱している。今回の「ちょっと」に関しては、メトニミーに基づく意味拡張がまだ確認されないことから、スキーマティック・ネットワークモデルに基づいて検討を進めることとする。

4）発話者の表示（「夫：」等）は、できるだけ文脈が理解しやすい表現に書きかえた。その他の用例中の記号は、本稿末の「文字化記号」もしくは現代日本語研究会編（2016）を参照されたい。

5）ポライトネス研究の領域では、1970年代より「ヘッジ（hedges）」（cf. Lakoff, 1973）と呼ばれる現象が注目されてきた。Brown & Levinson（1987, p.145）は、ヘッジを「述部や名詞句の中で表されるそのものらしさ（membership）の度合いを修正するような、小辞、語、慣用句のこと」と定義する。そしてヘッジを消極的ポライトネス・ストラテジーの1つとして位置づける。「ちょっと」もこの「ヘッジ」に相当すると考えられる。

6）鹿嶋（2011, pp.251-253）は、課題達成実験という限られた談話データを元に、発話行為に先行する場合や話順取得時に用いられる「ちょっと」が＜FTAsの程度緩和＞の機能を果たすこと、またプロトタイプ的意味を中心に放射状カテゴリーを成すことを指摘している。

7）牧原（2005）も「ちょっと」が「会話のターン（turn 話順）を取る」という用法を指摘し、それを「会話管理に関わる用法」と呼んでいる。

8）例（27d）の「ちょっと分からない」は、A-1型＜判断／評価の程度限定＞と考えられる。

文字化記号　※主な記号のみ掲載。詳細は現代日本語研究会編（2016）参照。

。　発話文末
、「係り受け関係が理解しやすくなるような箇所」「発話者の息の切れ目」「仮名が続いて意味がとりにくい箇所」
、、　１発話文の途中に相手の発話が入った場合の句末
？　疑問文
ー　長音
↑　目立った上昇イントネーション
↓　目立った下降イントネーション
⁇　半クエスチョン
★　発話途中で次の話者の発話が始まった場合の，次の話者の発話の始まりの時点
//　言いさしで終わった場合
｛｝　発話途中の聞き手のあいづち
＝　ラッチング
→ ←　前の話者との発話の重なり（始まり「→」、終わり「←」）

参考文献

秋田恵美子（2005）「現代日本語の『ちょっと』について」『創価大学別科紀要』17, pp.72-89.

Brown, Penelope and Stephen C. Levinson（1987）*Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.

現代日本語研究会編（2016）『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房

グループ・ジャマシイ編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

鹿嶋恵（2011）「談話連鎖から見る『ちょっと』の多義性とカテゴリー化」『社会言語科学会 第 28 回大会発表論文集』pp.250-253. 社会言語科学会

工藤浩（1983）「程度副詞をめぐって」渡辺実（編）『副用語の研究』pp.176-198. 明治書院

Lakoff, George（1987）*Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago : The University of Chicago Press.

Lakoff, George（1973）Hedges: a Study in Meaning Criteria and the Logic of Fuzzy Concepts. *Journal of Philosophical Logic* 2, pp.458-508.

Langacker, Ronald W.（1991）*Concept, image, and symbol* : the cognitive *basis of grammar*. Mouton de Gruyter.

Langacker, Ronald W.（2008）*Cognitive grammar* : *a basic introduction*. Oxford University Press.

真嶋潤子・濱田朱美（1999）「日本語初級教科書の分析試案 ―『ちょっと』の意味・用法から―」『日本語・日本文化研究』9, pp.27-44.

牧原功（2005）「談話における『ちょっと』の機能」『群馬大学留学生センター論集』5, pp.1-11.

益岡隆志（2007）『日本語モダリティ探究』くろしお出版

三宅節子（2003）「程度小を表す副詞の一研究：『すこし / ちょっと』を対象に」『日本語・日本文化』29, pp.115-136.

籾山洋介（2014）『日本語研究のための認知言語学』研究社

籾山洋介（2021）『［例解］日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』大修館書店

中道真木男（1991）「第四部　副詞の用法分類 ―基準と実例―」国立国語研究所『日本語教育指導参考書 19　副詞の意味と用法』pp.109-180. 大蔵省印刷局

仁田義雄（2002）『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004）「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」『北海道文教大学論集』5, pp.65-75.
彭飛（1990）『外国人を悩ませる日本人の言語習慣に関する研究』和泉書院
彭飛（2005）『日本語の「配慮表現」に関する研究 ―中国語との比較研究における諸問題―』和泉書院
佐竹久仁子（2016）「第 2 章 文字化の原則」現代日本語研究会編『談話資料 日常生活のことば』pp.29-40. ひつじ書房
Searle, John R.（1969）*Speech Acts*. Cambridge: Cambridge University Press.
瀬戸健一（2007）「メタファーと多義語の記述」楠見孝編『メタファー研究の最前線』pp.31-61. ひつじ書房
瀬戸健一・武田勝昭・山口治彦・小林道彦・宮畑一範・辻本智子編（2007）『英語多義ネットワーク辞典』小学館
テイラー，ジョン・R（2003），辻幸夫・鍋島弘治朗・篠原俊吾・菅井三実訳（2008）『認知言語学のための 14 章 第 3 版』紀伊國屋書店
辻幸夫編（2013）『新編 認知言語学キーワード事典』研究社
薄井良子（2005）「反対意見表明における『ちょっと』の役割について」『国際文化学』12, pp.1-19.
山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
山根智恵（2002）『日本語研究叢書 15 日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版

Polysemy and Network Structure of the Japanese Word *Chotto* : An Analysis of the Corpus of Daily Japanese Conversation

KASHIMA, Megumi

In this paper we examine the polysemy and network structure of the Japanese word *chotto* from the perspective of discourse analysis and cognitive linguistics in the corpus of *Japanese Daily Interaction* (Gendai Nihongo Kenkyukai 2016), finding the following : 1) Of the 639 cases of *chotto* from the corpus, more than 40% were difficult or impossible to replace with *sukoshi* 'a little'. 2) These uses making up more than 40% of *chotto* were analyzed in terms of what they modify, and five types were identified. 3) We analyzed these five types based on the schematic-network model, finding a structure consisting of extensions and links from the prototypical meaning of 'small amount or low degree'. Two super-schemas were extracted at the top level in this structure: 'restriction on the degree of modifiers' and 'no modified part, discourse management function', and links between them were also identified.